

一時は廃村状態だった集落をまるごと再生した「グランピングSAYO」いずれも兵庫県佐用町若州(撮影・小林良多)

廃村まるごとグランピング

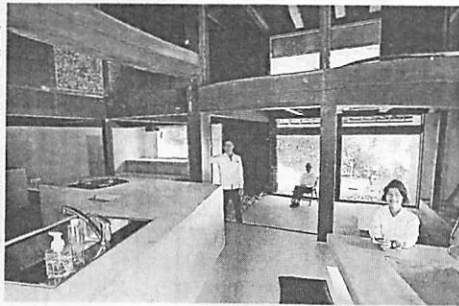
住民が1世帯だけとなった兵庫県佐用町の若州集落で、地区一帯をまるごと「グランピング」拠点に生まれ変わらせる試みが進んでいる。長らく空き家になっていた山あいの古民家6棟を一斉に改修し、宿泊施設などに再生。12月中旬にオープンする予定で、プロジェクトを手掛ける事業者は「集落ならではの一体感を生かし、自然に囲まれた時間を楽しめる空間にしたい」と意気込む。

(勝浦美香)

古民家6棟 宿泊・交流施設に

佐用町で元教師ら

中国自動車道の佐用インターチェンジから北西へ約15キロの若州集落。野鳥のさえずりが心地良く響き、川沿いには古民家が立ち並ぶ。旧4町が合併した2005年には7世帯が暮らし、高齢化などで次々に減り、08年にはいったん無人の廃村状態に。現在の1世帯は、その後に入った移住者だ。



古民家を改修した宿泊棟。個性的な内部で「グランピング」を楽しめる



大勢のボランティアらとともに古民家を生まれ変わらせた大野篤史さん

中国自動車道の佐用インターチェンジから北西へ約15キロの若州集落。野鳥のさえずりが心地良く響き、川沿いには古民家が立ち並ぶ。旧4町が合併した2005年には7世帯が暮らし、高齢化などで次々に減り、08年にはいったん無人の廃村状態に。現在の1世帯は、その後に入った移住者だ。

事業に挑むのは、ともに神戸市内で元教師だった大野篤史さん(41)と大西猛さん(37)。採用同期の2人は古民家や田舎暮らしへの関心が共通することもあり、そとて転身を決めた。18年に共同で会社を設立し、兵庫県神河町で古民家1棟を宿泊施設に改修。「グランピング」と「古民家」を掛け合わせ「グランシカ」の名称で開業した。

すると、想定外の交流が生まれた。地域からお祝いやけが届いたり、果物の収穫体験に招かれたり、田舎ならではの体験ができる施設に発展。この経験を踏まえ、佐用町では集落のまるごと再生を企画した。

隣り合う6棟の空き物件を買い取り今春、工事に取掛けた。大野さんらの知り合いをたどり、全国から集まった五つの建築家チームが施工を担当。半年近く住み込み、シェアハウスに変わる」と驚き、観光客の増加を期待する。

各棟とも施設利用料2万6千円と、宿泊人数に応じたサービス料(1人7千円から)が必要。グランピングSAYO02790・71・0729

大勢のボランティアらとともに古民家を生まれ変わらせた大野篤史さん

神戸新聞 12月4日 金曜日 夕刊分

昨日と同じ日の記事です。我が西々播地域。廃村の危機をコロナ禍での新たな楽しみ方としてのチャンス(機会)に代えようとしている。安心・安全、そして癒しの空間を一度感じてみたいものです。